

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 全国高等学校総合文化祭開催準備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化伝承課教育文化係

電話番号：058-272-1111(内 3576)

E-mail：c11148@pre.gifu.lg.jp

1 事業費 13,110千円（前年度予算額：5,000千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
要求額	13,110	0	0	0	0	0	0	0	13,110
決定額	13,000	0	0	0	0	0	0	0	13,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

各都道府県代表高校生による芸術文化活動の祭典である全国高等学校総合文化祭は、令和6年度に岐阜県での開催が内定している。

当該文化祭は、高校生の創造活動の向上や相互交流を図るものであり、その成功に向けて着実な準備を進めていく必要がある。

開催3年前となる令和3年度は、大会の名称、会期、開会行事の内容や、開催部門・会場地などを決定する開催要綱を策定するとともに、各種制作物の公募を行う必要がある。

(2) 事業内容

- ・開催要綱の策定、実行委員会設立準備
- ・各種制作物の公募、決定
- ・先催県の視察及び実行委員会等会議出席などを通じた情報収集
- ・会場市町との連絡調整
- ・規定未設置部門の立ち上げ及び強化

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	84	公募制作物外部審査員謝金
旅費	1,802	公募制作物外部審査員費用弁償、生徒準備委員会生徒費用弁償、職員業務旅費
需用費	160	公募優秀作品表彰状・副賞
役務費	17	郵送代
委託料	3,165	広報用印刷物制作・配布、ミナモデザインデータ制作
使用料及び賃借料	207	会議室使用料等
負担金	7,675	県高文連・特文連への負担金（視察旅費、新設部門外部講師招へい謝金、新設部門外部講師）
合計	13,110	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

県教育ビジョンにおいて「スポーツ・文化等の分野で個性を伸ばす教育の推進」が目標として掲げられている。

(2) 国・他県の状況

令和2年度開催 高知県（WEB開催へ変更）
令和3年度開催 和歌山県
令和4年度開催 東京都
令和5年度開催 鹿児島県

(4) 事業主体及びその妥当性

全国高等学校総合文化祭の主催者は、文化庁、全国高等学校文化連盟、開催県高等学校文化連盟、開催県及び開催会場市町である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・本大会の開催を通じて、高校生の創造活動の向上や生徒間の交流を図り、高校生の文化部活動の活性化につなげるとともに、鑑賞者も含めた県民全体の芸術文化活動の機会創出と育成を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

全国高等学校総合文化祭を開催するための事業経費であり、具体的な目標を設定することができない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・県及び高文連事務局、各部門の運営担当者が第45回全国高総文祭和歌山大会プレ大会を視察し、先催県から情報収集を行うとともに、本大会開催に向けた準備を進めた。
- ・開催会場候補市町村との調整を進めた。
- ・未設置部門について、他県先進校の活動や県総文祭における部門運営等を視察し、部門立ち上げ準備を進めた。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- ・先催県からの情報収集や視察により、開催に向けての業務が明確化し、各部門ごとに課題の洗い出しができ、今後の開催要項・要領作成に向けた取り組みができる。
- ・開催会場計画を作成できた。
- ・未設置部門について、県総文祭の開催手法を学ぶことができ、次年度以降、県大会の主催や全国総文祭への参加生徒派遣に繋がる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各県が持ち回りで開催する事業であり、主催は文化庁、全国高等学校文化連盟、開催県高等学校文化連盟、開催県及び開催会場市町である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度高知大会が新型コロナウイルスの影響でWeb開催となり、視察が実施できなかったが、プレ大会の和歌山大会を視察するなど開催に向けた準備を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視察や先催県から情報収集した結果を高文連や高文連各部門と共有し、開催に向けた準備を着実に進めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本大会に向け、特に部門教員の業務が増加することから、授業時間数軽減措置に伴う代替講師の配置など人件費要求の必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <ul style="list-style-type: none"> ・ 本大会開催及び成功に向けて着実に段階を踏んで準備を継続していくとともに、大会を契機とした文化芸術活動を通じた創造活動を推進していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	